

BMB2010男女共同参画ワークショップ

父親の育児参画が生み出す
家族的・社会的効果について
～ファザーリングのすすめ～



NPO法人ファザーリング・ジャパン
代表 安藤 哲也

2010年12月7日 神戸ポートピアホテル

FJ代表・安藤プロフィール

安藤哲也(あんどろ・てつや)

- ▶ 1962年生まれ。現在、13歳(女)、10歳(男)、2歳(男)の父親。
大学卒業後、出版やIT系企業で働く。
06年11月、会社員の傍ら、父親の子育て支援・自立支援事業を展開するNPO法人ファザーリング・ジャパン(FJ)を立ち上げ、代表に選出・就任。現在に至る。
- ▶ 地域では、保育園、学童クラブの父母会長、小学校のPTA会長を務めるほか2003年より、パパ's絵本プロジェクトのメンバーとして、
- ▶ 全国の図書館・保育園・自治体等にて、パパの出張絵本おはなし会を開催中。
- ▶ NHK「ラジオビタミン」レギュラー出演中。著書に『パパの極意～仕事も育児も楽しむ生き方』(NHK出版)、『絵本であそぼ!』(小学館)、翻訳絵本に『ぼくとおとうさんのテッド』(文溪堂)などがある。
- ▶ 主な委嘱委員・・・ **厚生労働省イクメンプロジェクト推進チーム**座長/内閣府・ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム/内閣府・男女共同参画推進連携会議/国土交通省観光庁・休暇改革国民会議/東京都・次世代育成支援検討委員会/東京都・子育て応援とうきょう会議/文部科学省・父と子の愛着形成プログラム研究委員会/厚生労働省・男性の仕事と育児の両立意識啓発事業委員会/内閣府・少子化社会対策に関する先進的取組事例調査研究会/内閣府・認定こども園制度の在り方に関する検討会/松戸市・男女共同参画推進協議会/埼玉県地域家庭教育推進協議会/電通ジセダイ育成委員会/にっぽん子育て応援団団長/自治労・男女平等推進委員会



特定非営利活動法人 ファザーリング・ジャパン(FJ)概要

Fathering
Japan



「Fathering＝父親であることを楽しもう」という考えを持つ若い世代の父親を支援。働き方の見直し(WLB)や企業の意識改革、地域社会の再生など父親育児の環境づくりと次世代育成を目標に、セミナー、スクール、検定、旅行、出版などさまざまな父親支援事業を展開。また父子家庭支援や男性の育休取得推進など政策提言としての活動も行う。 www.fathering.jp

★設立:2006年11月
個人会員:155名(パパ95%)
法人会員:16社
サポーター会員:6,400名
(2010年10月現在)



ファザーリング・ジャパン（FJ）の事業

- ・セミナー、ワークショップ、フォーラムの開催
- ・ファザーリング・スクール(父親学校)の開講(09年10月～)
- ・個人、企業の意識(実態)調査
- ・子育てパパカ(ぢから)検定の主催
- ・父親コミュニティ、ネットワーク形成
- ・パパソング音楽配信、Tシャツ(パパT)の販売
- ・父子旅行(キャンプ)の開催、パパ保育園の運営(計画中)
- ・若年層(次世代パパ)への早期教育@大学・高校
- ・企業提携(研修、事業アライアンス)
- ・父子家庭支援(フレンチトースト基金)
- ・産後うつ予防(ペンギンパパプロジェクト)
- ・男性の育休取得推進(さんきゅーパパプロジェクト)

ファザーリング・スクール (父親学校)



<カリキュラム>

パパの育児参加と子どもの成長

ワークライフバランス

絵本・あそび

パパごはんの作り方(料理教室)

産後ケア

ママの心のつかみ方(パートナーシップ)

ファイナンシャル(子育てとお金の話)

育児と社会問題

地域・コミュニティづくり

ファザーリングの極意

パパ・ブランディング

修了式

放課後(交流会)

F J フォーラム (政策提言へ)



父子家庭支援



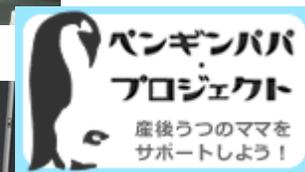
保育園待機児童問題



男性の育休取得推進



児童虐待問題



産後うつ問題

父親たちで考える“産後うつ”問題

～ママを産後うつから守る！パパはママの最強サポーター～

国・自治体etc連携



子育て応援とうきょう会議(東京都福祉局)



いわき市



大分県



こども未来財団



鳥取県

父親の子育てを支える環境づくり

●行政・自治体

法制度の整備、多様な父親支援プログラムの実行、
役所から意識改革を～公務員(男性)が育休を取得を！

●企業

就労環境の改善、制度改革、評価基準の見直し
父親研修の導入

●地域社会(保育園・学校・学童クラブ、町会、NPO)

コミュニティの活性化、父親ネットワーク

●家族

親世代の固執意識や「門番としての母親」を変える

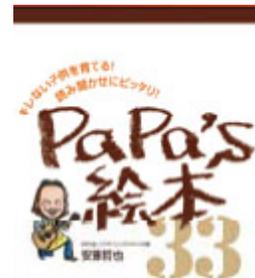


イクメン（育児に積極的な男性）が急増！

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



パパ向け育児雑誌も人気



厚生労働省イクメンプロジェクト



TAKASHIMAYA × IKUMEN



百貨店もイクメングッズ販売を強化



グランドシムフォニア
戸田公園
GRANSYMPHONIA

子育て支援マンション
で、パパ向けセミナー

日本でいま注目浴びるイクメンとは？

1. イクメンとは、「育児・家事を楽しめるカッコいい男」のことである。
2. イクメンは、子どもに主体的に関わり、育て、広く多様な世界へ誘い出す。
3. イクメンは、妻への愛と心づかいを忘れない。
4. イクメンは、地域・社会の在り方にも意識が高い(FJ)



なぜいまイクメンに注目が！？



社会構造・経済状況・ライフスタイルの変化で子どもを産み育てることが難しくなってきた。

＜出産・子育てが困難になる日本の状況＞

- ・非婚、不妊、晩婚（晩産）→少子高齢化社会、労働力減
- ・離婚（年間25万件）→ひとり親家庭の増加
- ・育児ノイローゼ（産後うつ）、虐待、教育問題
- ・家族モデルの多様化（核家族化75%に）
- ・都市化/マンション化（地域社会の機能不全）
- ・縮む経済・伸びない所得（必然的に増える共働き家庭）

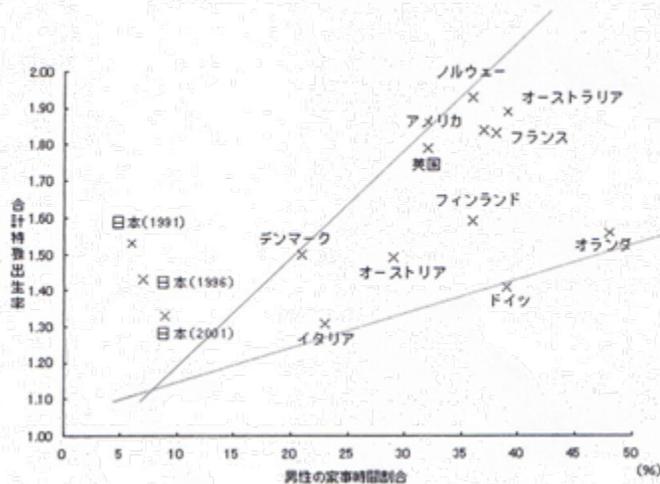


★旧来の男女役割や働き方の見直し→父親の育児・家事

▶ 参加、女性の社会進出

パパが家事・育児をすると社会的には・・・

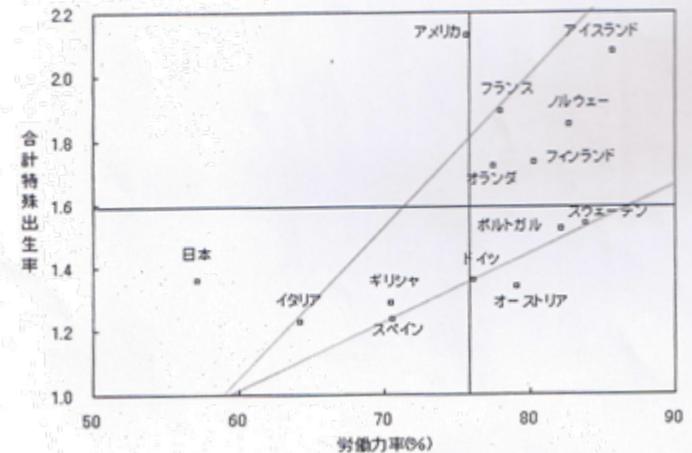
図表31 先進諸国における男性の家事時間割合と出生率



資料: UNDP, Human Development Report 1995, 1995. 総務省統計局『社会生活基本調査報告書(第1巻)』各年版
注: 諸外国のデータは各国の調査年次が異なるため1985-92年にまたがる。

→ 男性が育児参加をするほど、出生率は上がる。

図表27 女性(30-34歳)の労働力率と出生率の関係: 2000年



出典: Council of Europe, Recent Demographic Developments in Europe 2001, 2001.
U.S.DHHS, National Vital Statistics Report, 50-5, 2002.
ILO, Yearbook of Labor Statistics, 2001.

→ 出産後も女性が就労するほど、出生率は上がる。

日本の女性が子どもを産むことへの4大不安

1位 仕事と育児の両立ができるかどうか？

2位 いまの社会環境では安心して子育てできない

3位 自分の時間がなくなってしまう

4位 「母親」へのプレッシャー＞自分の意識



イクメンに熱い注目が！



専業ママたちの悩み

- 1位 夫のこと(育児・家庭への無関心、浮気、暴力etc)
- 2位 自分のこと。社会的隔絶感(アイデンティティ・クライシス)
- 3位 姑との関係
- 4位 近所のママ友との関係



理解のある夫(イクメンパパ)がいてくれたら・・・



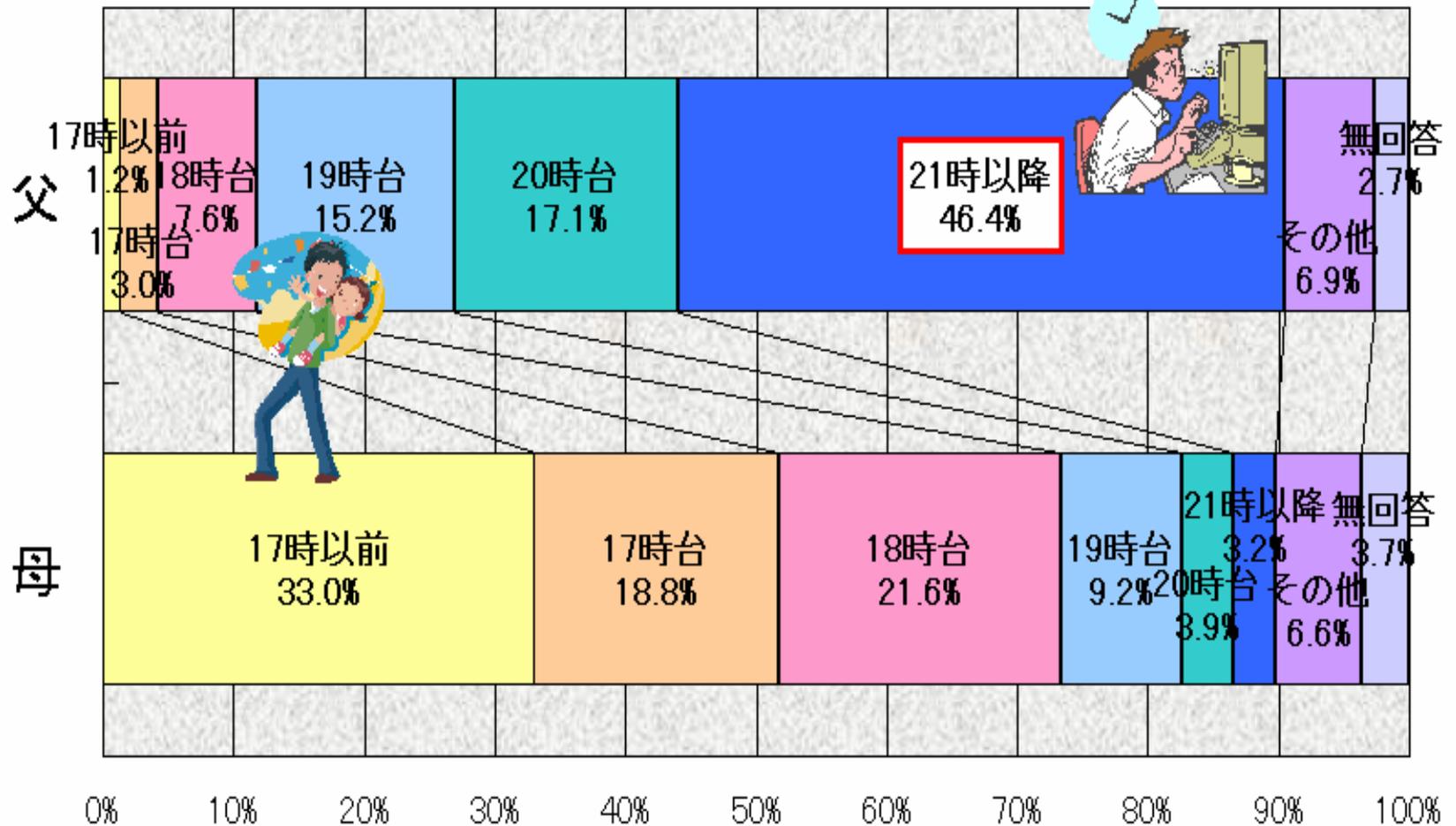
男性（パパ）の子育ての悩み・課題

▶ ① 仕事が忙しくて育児時間が取れない

- ・日本の男性の育児時間は1日平均30分
 - ・子育て期の男性の4人に1人が週60時間以上の超長時間労働（都市圏）。
 - ・男性の育児休業取得率1.56%(07年)→1.23%(08年)
 - ・過労やストレスによる、うつ・自殺が急増。
 - ・育児と仕事を同等に重視したい、WLBを実践したい男性は7割いるが、現実には仕事優先の人が7割。
-

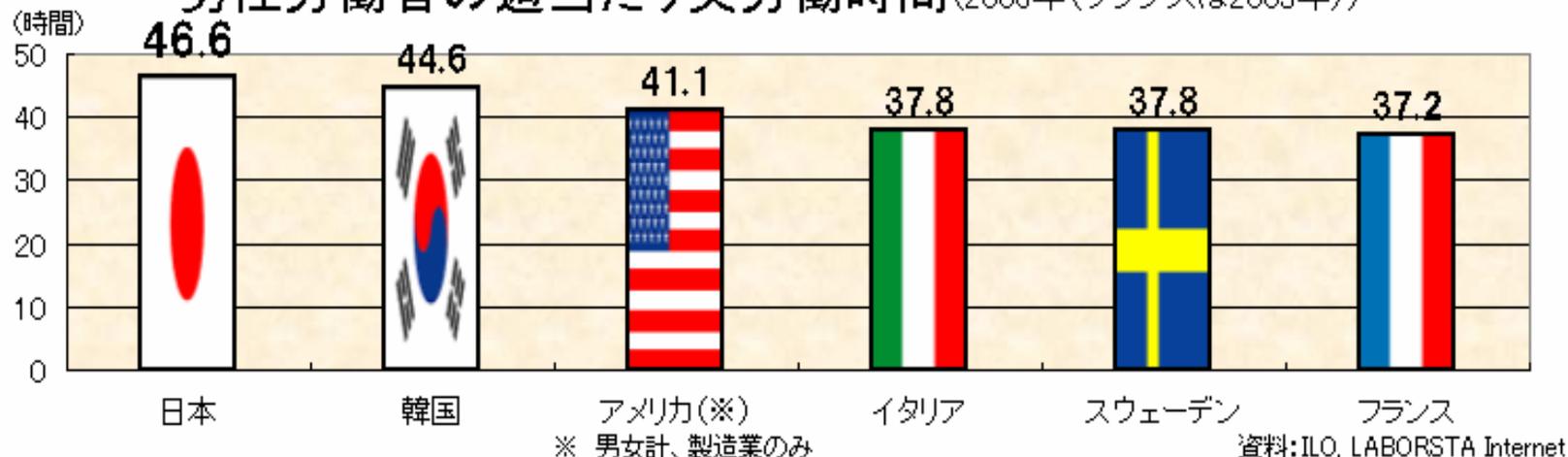
パパ、ママは何時に帰っている？

(調査対象:小学生までの子どもを養育する世帯)

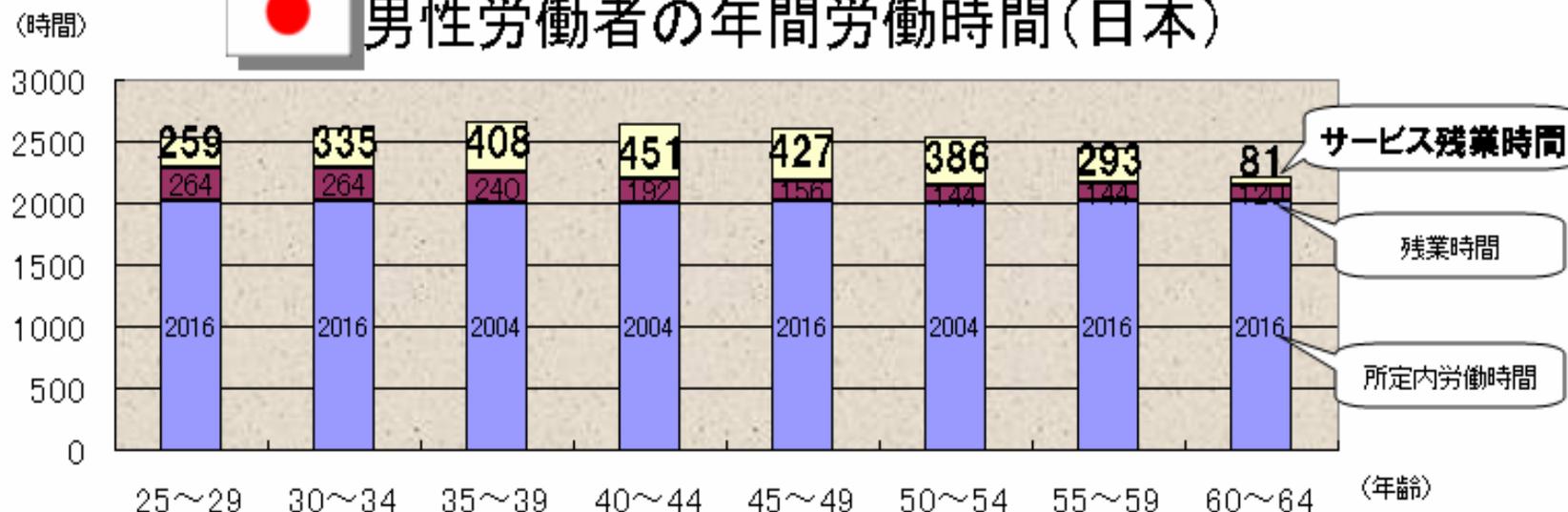


資料:平成19年度東京都福祉保健局基礎調査「東京の子どもと家庭」(速報)

男性労働者の週当たり実労働時間(2006年(フランスは2005年))



男性労働者の年間労働時間(日本)



資料: 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」2006年及び総務省「労働力調査」2006年を基に(株)富士通総研経済研究所主任研究員瀧美氏作

男性の子育ての悩み・課題

▶ ②子どもとどう向き合っていていいかわからない

- ・抱っこができない。一緒に遊べない。どう接していいかわからない。叱り方がわからない。可愛くない。
- ・子どものころに群れ遊びをしてない、モノ消費中心文化の世代が子育て期へ



男性の子育ての悩み・課題

▶ ③子どもが生まれてから、夫婦関係が悪化した

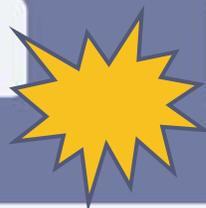
- ・子どもが生まれると妻と夫では大事なものが違ってくる→離婚に至る場合も
- ・夫婦関係の悪化が子育てに及ぼす悪影響に気づかず、子どもの荒れ・非行が深刻化。



このような状態が子育てにどう影響するか

父親の不在

母親の過干渉



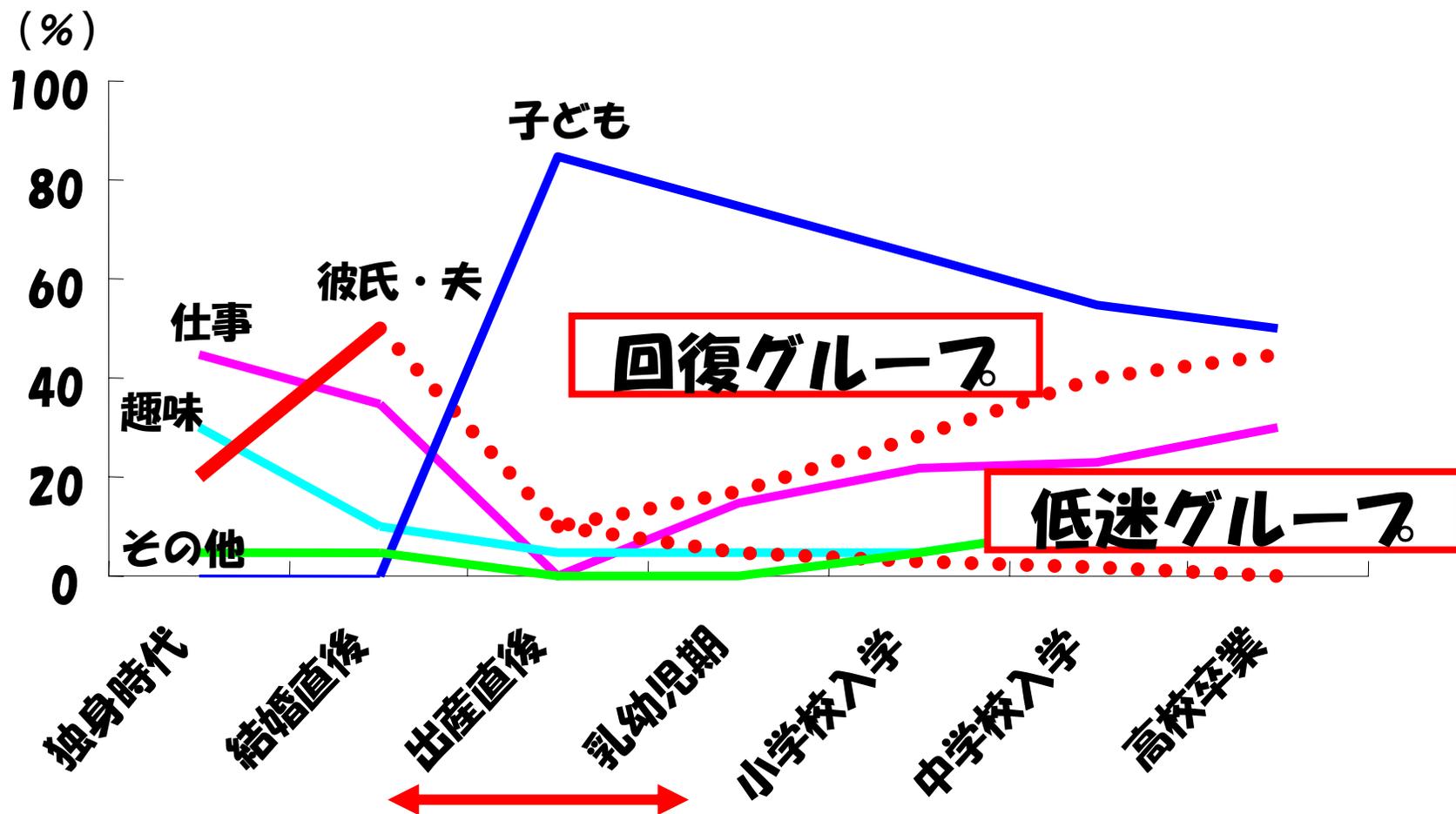
子どもの自己肯定感・自尊心が育たない

恋愛感情・異性意識が歪む

自立を阻害



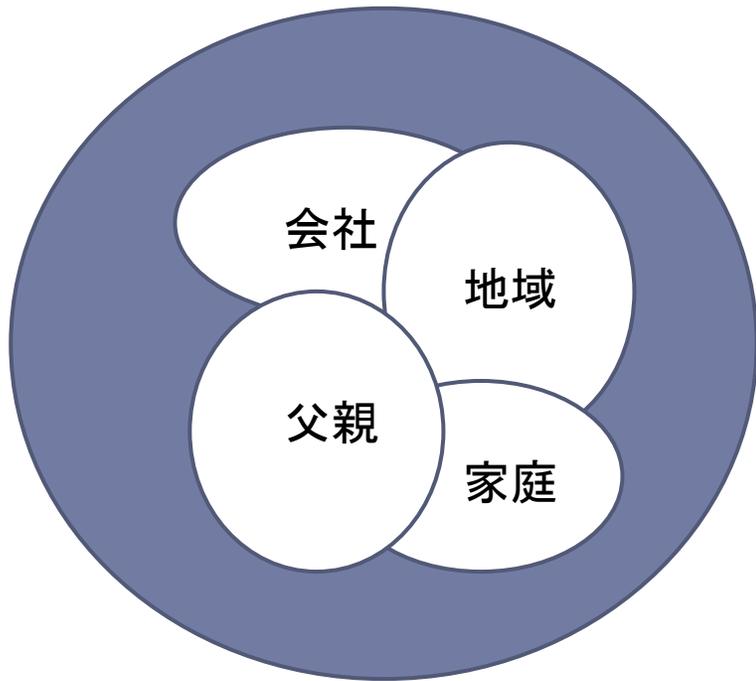
女性の愛情曲線



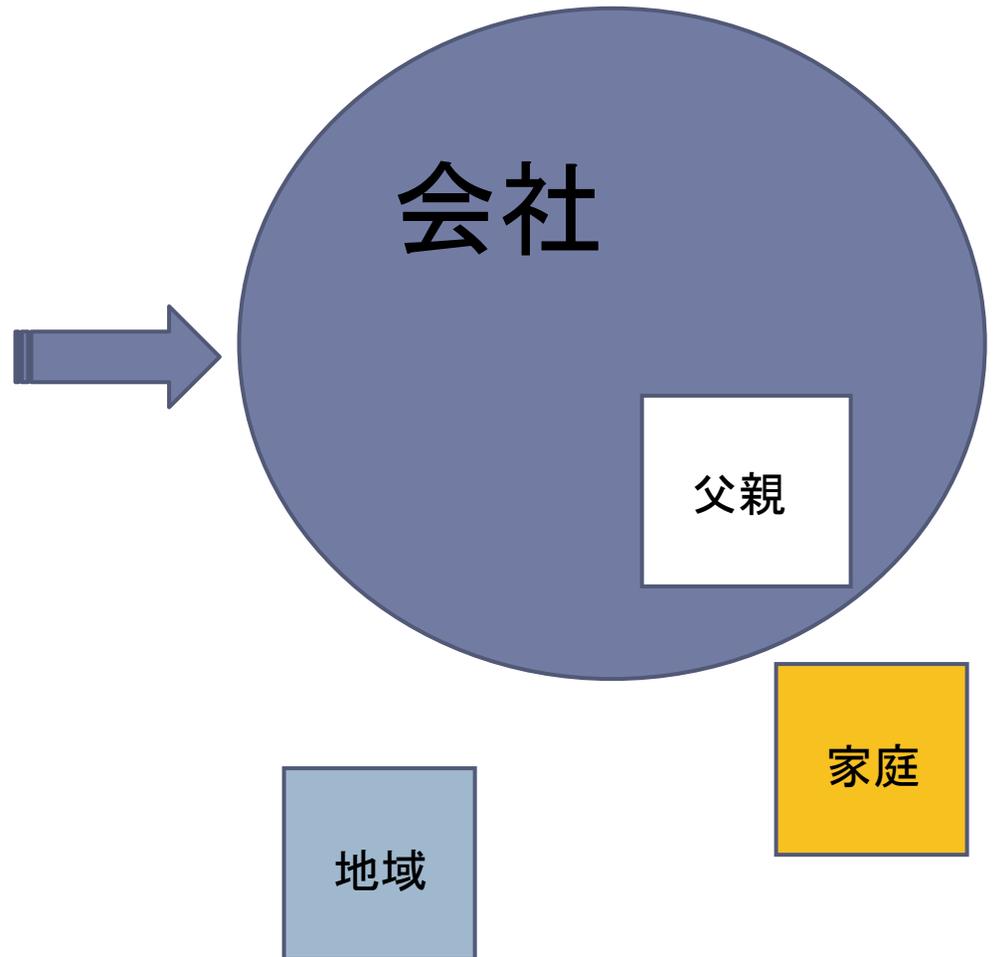
この時期が重要。

父親と、家庭・地域・会社の関係変化

1950 ~70年代



バブル以降~21世紀



F J セミナー



F Jワークショップ



F J パパごはん教室



F J ツアー (父子旅行)



パパにとっての家とは？

(現状)

家がホームではなく、アウェー(敵地)になっている。

(解決策)

- ・帰りたくなる場所にする→パパの役割・居場所づくり
- ・休む場所から、働く(傍にいる人をラクにする)場所へ



ワークライフ・バランスの誤解

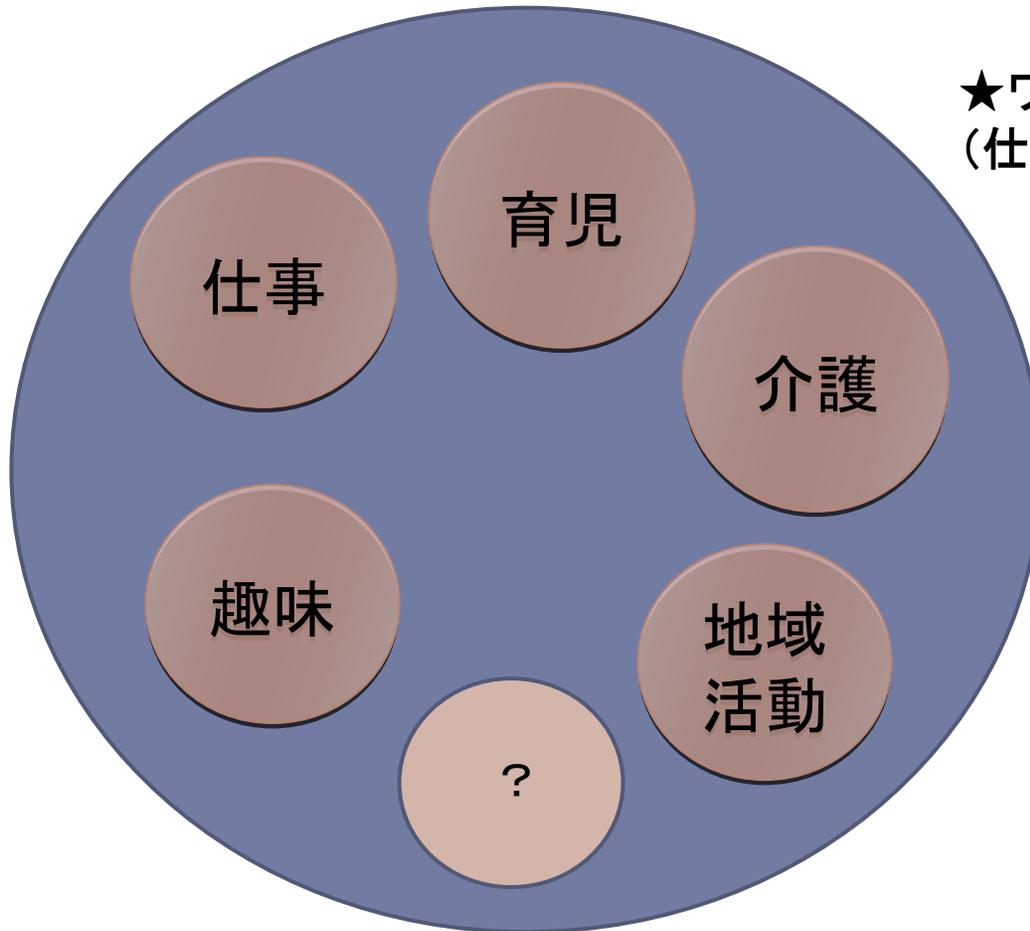
WLBは女性だけの問題ではない。男性の両立支援策でもある。

労務管理問題ではなく、自分問題。「ワークスタイル・イノベーション」

早く帰ることが目的ではなく、早く帰って何がしたいのか？



豊かな人生のための、寄せ鍋理論とは？



★ワーク・ライフ・シナジー
(仕事と生活の相乗効果)

「キャリア」の概念が変わってきた

→キャリアとは、自分の人生を構成する一連の出来事

父親が育児に関わるメリット

- ・母親の育児ストレスが軽減される。
- ・夫婦関係(パートナーシップ)が強まる。
- ・子どもの成長にいい。言葉や社会性が早く身につく。子どものよきモデルとなる。
- ・自活力がつく。地域に友達も増え、定年後～老後も安心。
- ・仕事で有効な能力も身につく。アイデアが仕事に活きる。
- ・父親自身の世界が広がり、人生が楽しくなる。

子育てパパは仕事もデキル！

～仕事に生きるパパ力

- ▶ ①時間管理能力(タイムマネジメント)
 - ▶ ②段取り力・企画構成力
 - ▶ ③問題解決能力・問題発生予知能力
 - ▶ ④職場コミュニケーション力
 - ▶ ⑤社外ネットワーク力
 - ▶ ⑥部下育てマネジメント力
 - ▶ ⑦ダイバーシティ力(多様性の理解)
-



現代の父親に必要な真のパパカ

① ママを支える

② パパ友をつくる



父親ネットワークが地域社会にもたらすもの

- ①地域の安全性が高まる
- ②子どもの居場所が増える
- ③子どもたちが多様な父性に接し社会性や職業感が育つ
- ④持続可能な共生社会が構築される
- ⑤コミュニティが活性化し、社会資本(資産価値)が高まる



Fathering (ファザーリング) とは？

★父親であることを楽しもう。

★地球上で、父親ほど素晴らしい仕事はない。

★育児は、期間限定のプロジェクトX。

★育児は能力開発の機会、アナザーワールドへの入り口。

★よい父親ではなく、笑っている父親
▶ になろう！

笑う父親になるための、 ファザーリングの極意6カ条

子どもができたらOS(父親ソフト)を入れ替えよう

義務から権利へ。客体から主体へ。さらば「家族サービス」

男の育児は、質より量。イトコドリ育児をやめよう

子育てパパは仕事もデキル。育児で備わる3つの能力

パートナーシップの構築～妻の人生は、夫のものではない

地域活動を通じて、シチズンシップを獲得しよう

パパが育児を楽しむためにママができること 家をアウェーにしない方法

- ・パパのやる気を阻む「門番」をやめよう
- ・家でパパの「上司」になってはいけない
- ・パパは誉めて育てよう
- ・ママは名女優を目指そう
- ・子育ては楽しいものだというメッセージを発信し続けよう
- ・ママも笑って子育てをしよう



父親が変われば、
家庭が変わる
地域が変わる、
企業が変わる、
そして、社会が変わる。



Fathering Japan



ご清聴ありがとうございました！

